



令和8年2月27日

## 子どもの“せぼね”を守る徳島大学病院の挑戦 ～側弯症診療を支える三本柱～

### <報道概要>

思春期特発性側弯症は、成長期に背骨が左右にねじれて曲がる疾患で、進行すると体のバランスの崩れや、将来の生活の質に影響を及ぼす可能性があります。そのため、地域や検診体制の差に左右されない早期発見に加え、保存療法から手術療法までを見据えた一貫した診療体制の構築が重要とされています。

徳島大学病院では、思春期特発性側弯症に対し、

① 学校検診による早期発見体制

② 装具療法に運動療法を加えた保存療法

③ 手術支援ロボットアームシステム等を用いた外科治療

の三本柱を軸とした診療体制を構築しています。

これら三本柱の取組を通じて、側弯症を「見逃さず、進行させず、安全に治療する」診療体制を推進し、子どもたちが将来にわたって安心して生活できる医療の提供を目指しています。

早期発見の取組としては、徳島県と連携し、被ばくのない高精度機器を用いた学校検診を導入しています。これにより、従来課題とされてきた地域差の少ない、客観的で均一な検診体制の実現を進めています。

保存療法においては、装具療法に加え、徳島大学病院で実施している運動療法プログラムを活用しています。さらに、地域医療機関と連携した運動療法ネットワークを整備することで、通院負担に配慮しながら、成長期における側弯の進行抑制に取り組んでいます。

また、進行例や重症例に対しては、術中 CT や脊椎手術支援ロボットなどを活用した外科治療を実施し、若年患者に配慮した治療体制のもとで手術を行っています。

### お問い合わせ先

徳島大学病院整形外科

病棟医長 眞鍋 裕昭

電話番号 088-633-7240

メールアドレス h.manabe[アット]tokushima-u.ac.jp

※メールを送信される場合には、[アット]を@に置き換えてください。

770-8501

徳島市新蔵町二丁目 24 番地

電話番号 088-656-7021

<https://www.tokushima-u.ac.jp/>